

ごみを減らそう!!

めぐレットペーパーが リニューアルデビュー!!



「めぐレットペーパー」
130m x 6ロール入り=1パックが480円
シングル・芯なし・ミシン目入り。
市販のトイレットペーパーに比べてもお得です。

他のブランドと比較しても、お値打感のある優待で
店頭販売。



ペーパーホルダーにも
しっかり!



CONTENTS

- ◆特集 1 _____ ②
京都市ごみ減量推進会議が新しくなりました!!
- ◆特集 2 _____ ④
京都市廃食用油燃料化施設が完成
- ◆NEWS _____ ⑥
第4回こどもワークショップほか
- ◆行政からのお知らせ _____ ⑦
リターナブルびん等の拠点回収を開始
- ◆Report _____ ⑧
「環境スタンプラリー」開催
- ◆会員探訪 _____ ⑩
サンコール株式会社・関西古紙回収協同組合
- ◆Series 「やっています、わたしの住む町で、ごみ減らし」 _____ ⑫
宇多野地域女性会ごみ減量推進会議 (右京区)
室町地域ごみ減量推進会議 (上京区)

京都市ごみ減量推進会議のリサイクルブランドとして1999年11月に市販された「めぐレットペーパー」が、このほど姿も中身も新しくなって再デビュー。学校給食用牛乳パックを主原料とするトイレットペーパー「めぐレットペーパー」は、市立学校の児童・生徒たちが自ら取り組むリサイクル活動であり、環境学習面でも話題を集めてきた。発売後5年が過ぎ、ブランドとして充実を図るため、いろいろな意見をくみ取り、より使いやすく、お得になって登場した。芯をなくし、ロールの量を増量。タッチもよりやわらかに。生協(一部店舗)、イズミヤ、ジャスコ(一部店舗)、ポロロッカなどスーパーをはじめ、お近くの生活雑貨店など38店舗で小売販売中。

It's NEW! 京都市ごみ減量推進会議が 新しくなりました!!

待ったなしのごみ問題。市民、事業者、行政の3者の取組で、多彩な活動を重ねて7年目、時代の変化や活動の実情を考えつつ、組織改革を進めました。一人ひとりが主役となり、お互いのパートナーシップを大切に、それぞれの立場を生かしながら新たな絆をつくり、相乗効果を生み出そうと組織を一新しました。

ゴミを減らそう!

みんなで
頑張ります!

たのしく
やりましょう

市民、事業者、行政
のパートナーシップ
で頑張りましょう。

今年1年仲良く、
楽しくしましょう

西谷竹二

黒田浩二

安西伸一郎課長

牧村雅史課長補佐

境 美緒

よろしくお願いします。
頑張ります。

京都市ごみ減量推進会議

田中真砂世

秘密書類
リサイクル事業
秘密書類もリサイクルできます!



私たちの分別した1紙が、資源資源を守ります。
京都市ごみ減量推進会議
TEL:075-222-4001 FAX:075-222-4002

京のごみ減量21

ごみ減量21の輪



小島 浩一

京都市ごみ減量推進会議

使用済みてんぷら油の回収と
ごみ減量21
E15SPALIN VEGE
使用済みてんぷら油が燃料に



京都市ごみ減量推進会議
TEL:075-222-4001

エコセン、活動支援室も一新。
レイアウトが新しくなりました。
窓側の席になりました。
いつでもお気軽にどうぞ!!

3つの委員会組織で事業を効率的に進めます。



ごみ減量の 基本方針

- ①まず発生抑制，再利用，そしてリサイクル
- ②三者（市民・事業者・行政）の役割分担
- ③パートナーシップの確立

どんなことを
するの？
具体的には？

■普及啓発実行委員会は…

- 京都市ごみ減量推進会議の活動をはじめ，ごみの減量に関わる各種情報を発信します。また全市的なキャンペーンも展開。
- 会報誌「ごみを減らそう！！」の発行。ホームページの運営。
- ごみ減量実践講座の開催。買い物袋持参，簡易包装推進キャンペーンの実施。

■ごみ減量事業化実行委員会は…

- ごみ減らしの具現化に向け，事業所及び家庭ごみの減量に関する全市的な事業を企画・実施します。
- 再生紙の利用促進（めくレットペーパー事業の促進）。市役所前フリーマの開催。
- 企業における秘密書類のリサイクル事業。リユースびん事業化推進活動。
- 事業所，商店街等のごみ減量の推進（K E S取得支援等）。

■地域活動実行委員会は…

- ごみ収集車などの燃料にリサイクルされる使用済みてんぷら油の拠点回収，古紙の集団回収，地域での学習会開催などを行う地域ごみ減量推進会議の立ち上げや活動を支援します。
- 使用済みてんぷら油リサイクル事業の支援。学習会の開催などの支援。

16年度もいろいろな事業をどんどん展開していきます。

愛称募集 〈再生燃料に名前をつけよう！〉
 京都市ではバイオディーゼルの愛称を募集しています。締め切りは平成16年8月31日。【愛称】と住所、氏名、年齢を書いてハガキかFAXで下記へ。採用者にはトランプカカカード3万円など。
 〒604-8101 中京区柳馬場通御池下ル京都朝日ビル4F
 『京都市環境局施設部施設整備課』
 TEL：212-8500 FAX：212-8504



市民の力が礎となって 循環型社会へ大きくジャンプ

～京都市廃食用油 燃料化施設が完成～

「バイオディーゼル燃料の出産」
 バイオディーゼル燃料は、食用植物油を原料として、ローリーチと呼ばれる化学反応によって生成される。バイオディーゼル燃料は、従来のディーゼル燃料と比べて、燃焼時の排気ガスが少なく、環境に優しいとされている。また、食用植物油は、廃棄された廃食用油を原料として生産される。このように、廃食用油を資源として活用することで、循環型社会の実現に貢献している。

「バイオディーゼル燃料の出産」
 バイオディーゼル燃料は、食用植物油を原料として、ローリーチと呼ばれる化学反応によって生成される。バイオディーゼル燃料は、従来のディーゼル燃料と比べて、燃焼時の排気ガスが少なく、環境に優しいとされている。また、食用植物油は、廃棄された廃食用油を原料として生産される。このように、廃食用油を資源として活用することで、循環型社会の実現に貢献している。

京都市ごみ減量推進会議が発足して間もない平成9年8月に、スタートした家庭系廃食用油の回収。市民と一緒にやってきた7年にわたる実践的な取組が大きき花開いた。平成14年12月に着工されたバイオディーゼル燃料化施設がこのほど完成し、本格的に稼働をスタート。これにより、地域内での資源循環サイクルが実現する。
 京都市内925拠点から集められた天ぷら油がどのようにして燃料になるのか。紙上見学といこう。



2. 廃食用油の回収。ドラム缶から原料タンクへ



3. フィルターでゴミを除去



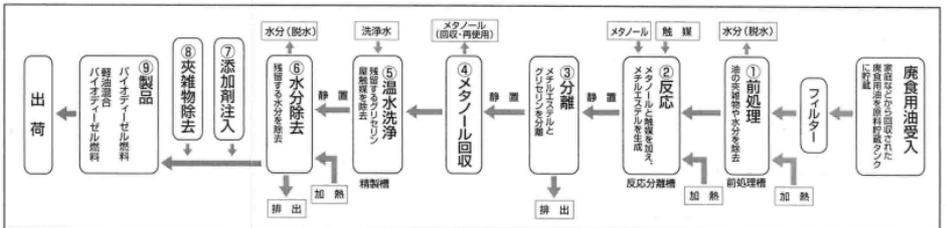
4. 原料貯蔵タンク



5. 中央制御室。前に見えるのは反応分撈機



6. 製造過程の油の移り、中央の瓶の瓶には分離したグリセリン、左側の2瓶は精製後のカンパル。



※案内をして下さった高田さん。

〈見学を終えて〉
 廃食用油の回収から始まり、精製、反応、分離、水分除去、添加剤注入、夾雑物除去、製品という一連の流れを体験することができた。廃食用油を資源として活用することで、循環型社会の実現に貢献していることが実感された。また、廃食用油の回収には、市民の協力が必要であることがわかった。廃食用油の回収には、市民の協力が必要であることがわかった。廃食用油の回収には、市民の協力が必要であることがわかった。

暑くても楽しかった。

第4回「ごみワークショップ」

「マンガを描いてごみを減らそう」

今年ハイ・ムーン先生によるマンガのレッスンは7月25日(日)に行われました(共催：京エロジーセンター)。7月夏休みに入ってから最初の日曜日。朝から暑い暑い1日でした。午前中は、「京都市のごみのはなし」(京都市循環型社会推進課 西谷氏)と「ごみ処理現場のはなし」(左京まち美化事務所 宮澤氏)とエロジーセンター内のみみずのコンボストの説明でした。お話やビデオが終わったら持参弁当で腹ごしらえをして、午後からはエロジーセンター館長ハイ・ムーン先生による、マンガのレッスン。

ごみ減量のエッセンスを加えて、マンガのコンテントを教えていたが、グループ内でイラストレーションをした後で、ダイナミックに絵を描きました。今年はちょっと親面さん少なく、やんちゃいっぱいの子どももいたかな。でも、最後まで、ごみを減らすということを通して、ごみを知りました。「ごみ減量」を知らないことを知りました。「ごみ減量」が、第一回目から企画運営にあたる細木京子さんは「ごみは大人よりも鋭い目で、ごみ



を見ている」、だから毎回刺激を受けるといいます。

「持つて帰りたい、持つて帰りたい」と訴える子供たちの絵は京エロジーセンター隣のシアター前に飾られています。一部感想も「せび、見に来てください。そして来年はあなたも参加してください(小学生対象ですが…)」。

- 子どもたちの描いたマンガ展示は、8月31日(火)まで。
- 京エロジーセンター(伏見区深草池ノ内町13)
- 地下鉄・近鉄「竹田駅」下車徒歩13分
- 京阪電車「藤森駅」下車徒歩5分

ごみ減量実践講座 今年も多彩なプログラムで開催

京都商工会議所との共催で2000年より開催してきた「エロジー時代エロジ」ごみ減量実践講座。今年度も時代の動きに合わせたテーマで開催予定。今年度からは、組織変更に伴い普及啓発実行委員会・企業向け実践講座委員会(幹事：岡松誠一さん)のメンバーで企画を進めてきた。第1回開催は9月9日(京都市の廃棄物行政が主)と題し、京都市環境局より五十嵐邦夫氏(循環型社会推進課担当課長)、白居保氏(廃棄物指導課指導係長)を招き、京都市の基本計画に基づいた動きを解説してセッションになっている。例年通り、04年9月から05年2月までの計5回の開催を予定している。

なお、この講座に関連して「見て・聞いてごみ対策ミニツアー」も3回にわたって開く申し込み締め切り9月10日。詳細は、別紙チラシにて案内している。参加申し込みは、早めに。

廃棄物リサイクル施設見学会のご案内

適正な処理が行われない場合、環境への影響が懸念される廃棄物。このたび京都市での処理システム整備を視野におき、コンシューマーズ京都が京都市ごみ減量推進会議調査研究助成事業として見学会を行う。

- ◆とき：9月26日(火)午後
- ◆見学先：旭興産業(伏見区)、野村興産関西工場(大阪市)
- 詳しくは「コンシューマーズ京都へ」(電話：075・251・1001 原さんまで)

- ▼第2回「通販カタログの環境戦略」10月28日(木)
講師：竹本徳幸氏(カタログハウス取締役)、立岡勇人氏(凸版印刷情報・出版事業部主任)
- ▼第3回「次をひらく鍵は企業の社会的責任にあり」11月11日(木)
講師：森孝之氏(大垣女子短期大学名誉教授)・(株)アイトワ
- ▼第4回「グリーンな企業活動の行く道」1月13日(木)
講師：植木力氏(株)カスターネット 代表取締役、ほか
- ▼第5回「衣料リサイクルの現状と課題」2月17日(木)
講師：ファイバリーサイクルネットワークより、丸山郁夫氏(高島屋京都店)

行政からのお知らせ

リターナブルびん(生きびん)等の 拠点回収を開始

京都市では平成16年6月より、市内8カ所の一般商店など(下表)の店頭回収ボックスを設置し、一升びんやビールびんなど、洗って繰り返し使えるリターナブルびん(生きびん)の回収を開始しました。

これは、ごみの発生を抑制し、リサイクルよりも環境に与える負荷が小さいリターナブルびんの利用促進を図るため、従来からの酒販店等に加えて、スーパーや小売店など市民が身近に排出できる拠点を増やし、市民に多様な分別、リサイクルの機会を提供するものであります。

拠点回収実施の背景としては、平成15年9月1日に酒販免許が自由化され、コンビニやスーパーなど酒類を販売する店舗が拡大する一方で、びんの店頭回収を行う販売店の減少や市民のライフスタイルの変化等から販売店へ返却する習慣が廃れつつあることや、リターナブルびんとワンウェイびんの選別が分かりにくくなっていること等から、市の資源ごみ収集にリターナブルびんが排出されるケースもあり、再使用されない傾向が強まる懸念があるためです。



回収ボックス設置店	所在地	電話番号
鞍業ハウディ	北・鞍馬口通室町東入小山西町226	441-4304
メルカードふなおか	北・紫野西藤ノ森町4-4	451-0110
はていや	上・千本通寺ノ内上ル西五辻北町429	462-0807
ニュートップ山科	山・音羽野田町26	591-1806
エビスク七条	下・新町七条下る	371-5609
森永牛乳奈佐販売店	南・西九条高島町20	691-6932
コーセツ嵯峨	右・嵯峨折戸町28-9	861-0621
フレンドリーショップ春屋福源店	伏・醍醐台場町15-1	572-2301

リターナブルびんは洗って繰り返し使用するびんです。

リターナブルびんは、生きびんです！キレに染って「回収ボックス」へ。

リターナブルびんの回収は約四年もの歴史をもつ暮らしの知恵。

※リターナブルびんは、瓶身(びん)とキャップ(ふた)を別々に回収し、分別して回収してください。

京都市では、今後、更に回収拠点を拡大し、リターナブルびんの再使用を促進します。皆さんのご協力をお願いします。

200名の子どもたちが楽しんだ 「環境スタンプラリー」

04.1/31
開催
於：三反田公園

同志社大学真山ゼミと葛野地域ごみ減量推進会議による「エコタウンふるじょくと」



◆ 葛野ごみ減量推進会議との出会いから

地域の人たちの手による環境に優しい地域づくりの実現のために、環境問題について関心を持つ人たちが、地域の人たちに働きかけることで、環境の輪を広げていく。それが「エコタウンふるじょくと」です。

「地域活性化」をテーマに、昨年4月からゼミ活動を行ってきた私たち同志社大学真山ゼミナールは、権威的な内容ではあるものの、私たちなりに「エコタウンふるじょくと」を作成しました。その後、昨年の8月に、縁あって知り合った葛野地域ごみ減量推進会議（以下、葛野ごみ減）の方々に、この「エコタウンふるじょくと」の第一歩として「葛野ごみ減・P・T・A・真山ゼミの三者で、葛野で環境に関するイベントを行いたい」と私たちの意向をお伝えしたところ、快くOKしてくださいました。そして今年の1月31日に、葛野ごみ減が主催という形で、葛野学区の三反田公園において「環境スタンプラリー」を開催しました。

◆ ごみの重さは？クイズで投げかけて

この「環境スタンプラリー」では、子どもたちに環境問題について関心を持ってもらうことが目的であり、そのために様々な工夫を凝らしました。例えば、実際に手で持って、京都市民一人当たりが一週間出すごみの重さを当てるクイズ、様々なごみを正しく分別するクイズを行うなど、子どもたちが自ら体験するという点を重視しました。また「環境スタンプラリー」の最後には、葉っぱの形をした紙に、環境のためにしようと思う目標を書いてもらうことで、「環境スタンプラリー」で知ったことや学んだことを振り返ってもらう機会としました。

「環境スタンプラリー」の実施に当たり、どれほどの人数の子どもたちに集まってももらえるかが最大の課題でしたが、葛野小学校の協力で始業式の際に体育館でP・T・A活動をさせてもらうことができました。P・T・A活動は絶大な効果を発揮して、企画当初50名程度の参加を目指していた「環境スタンプラリー」には200名近くの子どもたちが集まりました。

◆ 葛野学区の環境意識は高まると手応え

当日、スタンプを押すカードが足りなくなる等トラブルもありましたが、スタッフである葛野ごみ減、P・T・A、真山ゼミ、そして葛野小学校の先生方の連携によって、「環境スタンプラリー」は無事に終わりました。この日、公園内を元気に駆け回る子どもたちの姿、地域のために行動する人たちの姿を見て、葛野学区は今よりさらに魅力的な地域へと生まれ変わる力を持っていると強く感じました。

◆ 地域の人の手で活動を継続してほしい

環境問題に対する意識は、たった一度の活動で変わるほど容易なことではありません。地域の人たちの意識を変えていくには、「環境スタンプラリー」のような働きかけの活動を継続していく必要があります。今回、真山ゼミがこの企画を持ち込み、葛野ごみ減推進会議の方々の賛同を得て、その第一歩を踏み出すことができました。この大きな一歩をきっかけとして、今後は地域の人たちの手によって活動が行われることを望みます。

その実現はそう簡単なことではないかもしれませんが、「環境スタンプラリー」の後にとったアンケートの「楽しかった」「環境についてもっと知りたい」といった子どもたちの声に応えるためにも、関心を持つ人たちが、葛野ごみ減、P・T・Aといった枠を超えて集まり、話し合いの場が設けられることを願います。



会員探訪

市民団体、事業者、各種事業者団体、専門家など、多様な顔ぶれて構成される京都市こみ減量推進会議。今回も2団体の活動取材しました。

取材：濱利美幹（京都大学環境保全センター 大学院生）

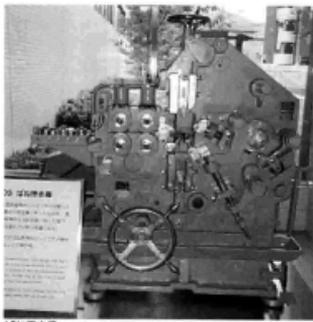


図1に示したような品質を完全無欠品と
主眼、宇津和五と二人、品質を完全無欠品と
完全無欠品と、開発で。

サンコール株式会社

Q ワヤーがすごい機械ですねー

A サンコール（以降、当社）は、昭和18年に井ばね用材料としてピアノ線の製造を目的に設立されました。この機械は、そのきつかけになつた「ねね焼き機」です。これは、三國同陸時代にドイツから分解して、リポートで運ばれ、陸軍の小倉工廠にあったものを、最終に伴い、当社が買い取つたもので、自動はね焼き機としては国内での第一号機と聞いております。



ばね焼き機

Q 今はどんな製品を？

A 線材からばねまでの一貫メーカーとしての事業を始めましたが、そこで培った技術・生産力を活かして、時代のニーズにあわせた製品を開発・製造してまいります。主な製品とし



シートヘルム

ましては、光通信機器や電子・情報機器のコンネクターやアダプターといった部品、自動車製成品に使用される金属ばねやキヤなどの部品があげられます。あまり目立たないものが多いのですが、実は皆様の身近にあるものばかりなのです。

Q ISO14001認証取得は？

A 1999年に本社工場で、環境管理システムMの国際規格であるISO14001の認証を取得いたしました。翌年には、全工場及び事業所に展開を拡大しております。取得当時の担当者は、ISO独特の言い回しや文書作成、社内への伝達に大変苦労があったようですが、「とにかく黙って俺について来い」というような熱意とリーダーシップで、比較的早く、全社を挙げた取り組みへ展開できたと思います。

それから1回目の更新までの3年間は、ごみ減量はもちろんのこと、省エネルギー、省資源の各面において、目に見えて効果が上がりました。また、その結果は即コストダウンにもつながり、大きな自信と励みになりました。中でも技術力を駆使した画期的な取り組みは、鉛線熱処理ラインです。従来、鉛の屑内で行っていたプロセスを砂を用いたものに代えました。これは、省資源だけでなく、職場内の健康や周辺環境の改善にも貢献するものであります。

Q すばらしい屋上庭園！景色も最高ですね？

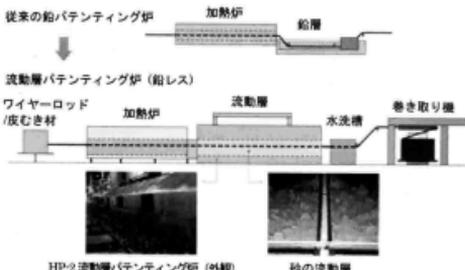
A 嵐山の麓で、すぐ近くに緑の濃い山々が迫っております。それに、ここからは五山の送り火の景観がまじかに見られますよー！のビルは今年の2月に竣工しました。屋上緑化はほの構築段階から、必ず実現しようと考えていた項目の一つです。環境の取り組みという側面もありますが、社員のリフレッシュや交流の場になれば良いなと思っておりま。

サンコール株式会社

本社所在地：〒615-8555 京都市右京区梅津西浦町14番地
TEL：075-881-8111（代表）FAX：075-881-4445
URT Home Page：http://www.suncall.co.jp
代表取締役社長：幸元 攻（こうもと おさむ）
設立：1943年（昭和18年）6月2日
資本金：48億300万円（2004年3月31日現在）
従業員：469名（2004年3月31日現在）
事業概要：

- 【光通信機器関連】 光通信ケーブル接続用コネクタ、アダプター等
- 【電子・情報機器関連】 プリンター用紙送りロータ、精密線ばね等
- 【自動車製成品関連】 エンジン用バルブスプリング、リングギア等
- 【精密機械材料】 精密超絶物ヒアノ線、オイルテンパー線等
- 【自動化・システム化機器関連】 P&P簡易ロボット、自動化装置、各種計測システム等

【世界初 鉛レス熱処理ライン】



関西古紙回収協同組合

事務所所在地：
〒606-8173 京都市左京区一乗寺梅ノ木町56-3
TEL：075-791-5881 FAX：075-722-3393
代表理事：多田雅明
設立：1980年
組合員：33名（2004年7月現在）
営業品目：
ダンボール、新聞、雑誌、オフィス古紙、機密
書類の収集運搬



代表理事 多田雅明さん

関西古紙回収協同組合

Q 「関西」の古紙を回収されているのですか？

A 関西古紙回収協同組合（以下、当組合）は、京都府の認可を受けております。です。なお、名前は「関西」としておりますが、京都府を中心とした各市がホーパランダムです。

具体的には、契約している事業所や団体、組合で一括して古紙回収をなすの連携と引き渡しを行っております。組合全体では月に4,000トン程度を扱っております。また組合内の後期分担も進んでおり、例えば、機密書類や事業系紙ごみの処理は組合員の1つであるトータルエコーンターが集中して対応しております。

この車で回収に戻る



Q 一般市民からの回収も多いのですか？

A 町内会やPTA、婦人会といった組織単位やマンション単位での回収という形で、約500カ所に対応しております。事業所も400〜500カ所対応しておりますが、回収量は、市民の方が75%、事業系は25%くらいでしょうか。市民の方々が75%、事業系は25%くらいでしょうか。

整然と集められた古紙



当組合は圧倒的に市民のお客様が多いのが特徴です。また、京都府ご減税の実施してあられた古紙回収のモデル事業にも協力させていただいております。このように、市民の皆様と協力し

てごみ減量と資源の有効利用に取り組む姿勢を、何より大切にしたいと考えております。

Q 市民のマネーは？

A 以前は、新聞の中に雑誌が混ざっていたり、分別されていなかったりしていたりとなっていました。ですが、今はそれとはほぼ違っておりまして、5年前前から「京都市」や「京都府」が、正しい分別を呼びかければ成果もあるかと思いますが、明らかに市民の意識が変わったと感じますね。また雑誌類が家庭でまわりの箱に捨てられたり、家庭ごみの収集場所に古紙の箱が捨てられていたのを見かけることがありますが、ごみ減らしの赤地はもう少しあるかもしれません。

Q 時代の変化が大きい世界では？

A 確かに、4半世紀経って来た国としては大きな時代の変化があり、その影響を受けたこともありました。何よりも大きかったのは、10年程前のバブル経済崩壊による不況です。紙の需要が急激に減少した一方で、リサイクル古紙の高まりにより古紙の収集量は増加し、必然的に古紙の相場は下落し、一瞬は赤字経営を覚悟しなければならぬ状態にまで追い込まれました。それでも、市民の皆様のごみ減量運動の努力に、地道に対応して来た結果が現在に続いているのを感じます。

Q 最近中国への輸出の話を聞きますが？

A 2年前くらいから中国への輸出が伸びているんです。現在、国内で発生し、回収された古紙の約1割が中国を始めとする海外へ輸出されています。それが日本国内のバランスが取れていないと推測されます。ですから、現在は低価格安定状態にありますが、今後の国際的な経済情勢が変化する場合にはあります。否応なくグローバルな視点から考える必要が出てきます。

Q 今後の展開は？

A やはり、集めて回収に出していただく方々に、責任と誠意を持って対応できる組合でありたいと思います。現在も、即決実行で適約な通り回収できる態勢を維持しておりますが、今後も、信頼してお付き合いいただけるよう、実態に合わせた対応と、ごみ減量の心算をいかにしてできるかにしていきたいと思っております。皆様お気軽に「粗大紙」を入れてください。



看板犬のラッキーくん

「やっています。わたしの住む町で、ごみ減らし」

取材：岡かおる

PTAの広報紙で、若い世代に呼びかけ

宇野地域女性会ごみ減量推進会議（右京区）

緑に囲まれた静かな住宅地の一角。宇野地域女性会ごみ減量推進会議のメンバーは、集まった油を次々とポリタンクへ注ぎ込んでいた。市からの要請を受け、自分たちでできる



メンバーの皆さん。後列右から3人目が会長の池さん（写真：矢島雄之さん）

ことをと女性会で取り組むことに。最初は自治連を通じて学区全体にチラシを配布。中でもPTAや幼稚園へは熱心に働きかけたという。「特に若いお母さんに関心を持ってほしかった」と会長の池ゆきさん。PTAの広報誌には年間の回収予定日が掲載されるようになった。

現在ポリタンクを設置した回収拠点は1カ所。地域を5ブロックに分け、毎月各ブロックから4～5人のメンバーが交代で世話をしている。今年から速くの人にも利用しやすいようブロックごとに油を預かる家を設け、担当者が拠点まで運ぶことになった。賞味期限切れの油の処分に関心していた人も多く回収は喜ばれたという。メンバーの一人は「孫ができて次の世代のことを考えるようになった」と話す。活動は4年目に入ったが、ゴミ収集車や市バスの一部がたぶら油で走ること知らない人は多い。「広報を充実し回収の輪をさらに広げたい」。母体となっている女性会では、廃油石けんづくりの他、教育委員会から委託を受けた「スクール21」という学習会の中でも、バイオディーゼルの布の再利用など環境に関わるテーマを取り上げ、世代を越えた交流を図っている。



地域に配るチラシ。左上が油を預かる家に貼る目印。

- ◆会長：池 ゆき
- ◆会員数：約200人
- ◆発足：2000年（平成12年）5月
- ◆使用済みたぶら油の回収：ポリタンクを設置した回収拠点は1カ所（ただし地域内5カ所で油を預かる）。毎月第4木曜日、午前10時～11時。

はじめは二人の奮闘から 今では誰でもできる回収システムに

室町地域ごみ減量推進会議（上京区）

室町地域ごみ減量推進会議は、保健協議会が中心となり、自治会全体の承認を得て、5年前に発足した。当時の会長中村芳三さんと副会長の織田英夫さんは、回収日のお知らせ、回収結果やお礼の報告を年に何度も回覧し、地域全体へ協力を呼びかけた。77町、3300世帯という大所帯のため、回収拠点は43カ所にもなった。

最初の4年間は、自家用車で各拠点へのポリタンクの設置から、回収、ドラム缶への移し替え、業者への引き渡し、こぼれた油の掃除まで、すべての作業を二人で行っていた。やがて「油の回収は当たり前」というほど、地域に浸透していく。昨年、中村会長の逝去に伴い、会長になった織田さんは、人が代わっても続けられる形へ変更する必要性を痛感し、新たなシステムの構築に乗り出す。ポリタンクは各拠点で管理し、業者が全拠点の回収に回るなどのシステムを町内に説明して歩いた結果、全拠点で理解を得る。

「集めてくれる人がいるから捨てずにすむ」と、お年寄りか油を持ってきてくれる。しかし「私はまだまだ自分ができることをしているだけ」、活動を続けられたのは、目に見えないところで協力してくれた周りの人たちのおかげと織田会長は謙虚だ。今後は現在の拠点で、古紙や缶の回収にも取り組みたいと構想をふくらませている。



「市の構築施設も完成し、これからですね」と話す織田さん。

- ◆会長：織田英夫
- ◆会員数：3900世帯
- ◆発足：1999年（平成11年）10月
- ◆使用済みたぶら油の回収：回収拠点は43カ所。毎月第2・第3木曜日、午前10時～午後3時。ただし店舗など4カ所は常時回収。

京都市ごみ減量推進会議会報誌 ごみを減らそう！No.26

発行：京都市ごみ減量推進会議事務局 2004年（平成16年）8月発行
〒604-8571 京都市中京区寺町御池
京都市環境局 環境政策部 循環型社会推進課内
TEL 075-257-5053 FAX 075-213-0453
京工エコロジーセンター活動支援室 TEL&FAX 075-647-3444
E-mail gomigen@mbox.kyoto-inet.or.jp
URL <http://web.kyoto-inet.or.jp/org/gomigen/index.html>

企画編集：京都市ごみ減量推進会議普及啓発実行委員会（会報誌、ホームページ小委員会）
浅利美鈴、梅影真生、大橋正明、岡 かおる、西田敬光、森田知都子
事務局：西谷竹二・田中真砂世

【入会のご案内】

京都市ごみ減量推進会議は、京都市のごみを減らし、環境を大切にしたいとまちと暮らしの実現に寄与することを目的として、市民、事業者、行政により1996年11月に設立した団体です。パートナーシップで多様な活動を展開中。京都市ごみ減量推進会議では、ともに活動する会員を募っています。

【会費】

市民（市民団体・消費者団体・環境団体等） 1口1千円
（年間1口以上）
専門家（学識経験者等）
地域ごみ減量推進会議 1口1千円
（年間2口以上）
大学・マスメディア・事業者団体
企業等・行政

詳細は、事務局へお問い合わせください。